



参天製薬株式会社

第111期 株主通信

2022年4月1日 ▶ 2023年3月31日

証券コード：4536





代表取締役社長兼CEO 伊藤 毅

基本理念

天機に参与する

自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献するということを意味しています。*

*中国の古典「中庸」の一節をSantenが独自に解釈したもので、社名「参天」の由来でもあります。

新中計策定の狙い

当社の強みである
"医療用医薬品事業"
の最大化に注力

- 1. 収益性改善に向けた取り組みの着実な推進
- 2. Rx事業*における生活者・患者さんへの貢献価値最大化
 - i. 生活者・患者さんへ提供されていない重要な価値棚卸し
 - ii. 既存/新製品・サービスを通じた、価値貢献の実現
 - iii. Rx事業への波及効果を念頭においた新規事業の推進
- 3. 中期経営計画遂行を担保する運用体制・仕組みの強化

*医療用医薬品事業

詳細は5、6頁をご覧ください

強みである"医療用医薬品事業"の最大化に注力 短期での収益性改善および中長期での成長を目指す

2023-2025年度新中期経営計画を発表

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年9月のCEO就任後、まずは短期での業績回復と中長期的な成長に向けて、収益性の改善に向けた取り組みの強化や成長の柱を立てること、そしてそれを推進する組織体制の構築に注力してまいりました。これらを踏まえて今年4月に2023-2025年度新中期経営計画を発表しました。

当社の強みである"医療用医薬品事業"の最大化に改めて注力してまいりたいと考えています。収益性の改善とともに、拡散したリソースを医療用医薬品事業とそれに直結する取り組みに集約することで、患者さんへの貢献を最大化していきます。また、併せてこれらを支える組織の運用体制や仕組みを強化することで、大型化が期待される近視や眼瞼下垂などのパイプラインによる2026年度以降の飛躍的成長を実現します。

2022年度の業績および2023年度の見通し

2022年度におきましては、売上収益は日本での主力製品に加え、アジア、EMEAも好調に推移したことから、対前期4.8%増収の2,790億3千7百万円となりました。利益面では、米州Eyevance（アイバンス）社に関する資産の減損損失計上や米州における医薬品事業の合理化に係る費用等を織り込んだため、営業損失30億9千万円、当期損失149億8千3百万円となりました。一方、事業活動自体の収益性を示すコアベースでの営業利益は、対前期4.5%減益の442億4千2百万円だったものの、下期以降のコスト最適化の取り組みが進展したことなどもあり第3四半期決算発表で開示した予想（410億円）を上回る着地となりました。

2023年度は、日本の主力製品の特許期間満了の

影響を織り込み、売上収益は2,730億円（対前期△2.2%）を予想していますが、コアベース営業利益は、インフレによるコスト増加もあるものの収益性改善に向けた取り組みが一層進展することにより460億円（同+4.0%）の増収を予想しています。

資本配分・株主還元について

新中期経営計画期間中においては、収益性改善を通じた、キャッシュの創出力を高めてまいります。その上で、創出したキャッシュを将来の成長のために、研究開発や事業開発に投資してまいります。株主還元については現在の年間配当32円を下限値として、利益成長に応じて増配を検討します。有望な事業開発投資機会が無い場合は株価の状況を鑑みながら機動的な自己株式取得による利益還元を実施することを掲げています。

2023年度については、中間配当16円、期末配当16円の計32円を予定しています。また、上述の方針に基づき、2023年5月12日から2024年3月22日までを取得期間とする上限18,750,000株（自己株式を除く発行済株式総数に対する割合5.0%）もしくは245億円を上限とする自己株式取得を実施しています。自己株式については消却を予定しています。

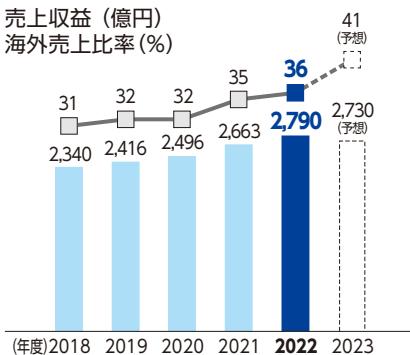
これからも、基本理念に基づき、世界中の患者さんや眼科医から必要とされる製品・サービスの提供を通じ、眼科に特化した企業として世界中の眼科医療に貢献し、持続的な成長を目指してまいります。株主の皆さまには、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長兼CEO

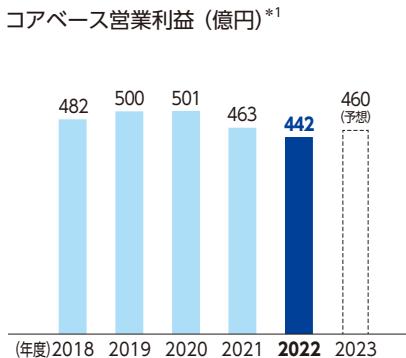
河藤 毅

連結財務ハイライト

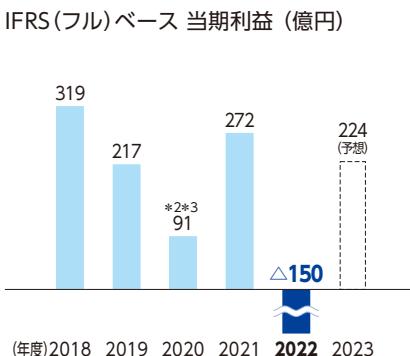
売上収益 (億円)
海外売上比率 (%)



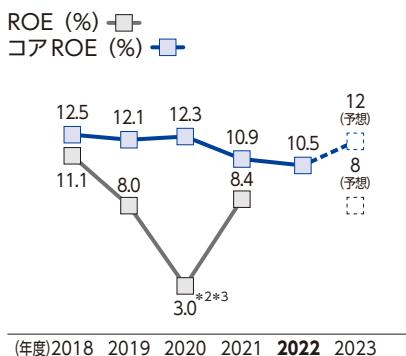
コアベース営業利益 (億円)*1



IFRS (フル) ベース 当期利益 (億円)



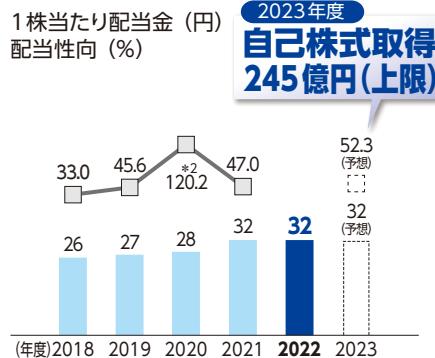
ROE (%) □
コアROE (%) ■



研究開発費 (億円)



1株当たり配当金 (円)
配当性向 (%)



*1 IFRS (フル) ベースから一部の収益・費用 (製品に係る無形資産償却費、その他の収益、その他の費用、金融収益、金融費用、持分法による投資損益、販売費及び一般管理費のうち、企業買収に係る費用、並びに再成長のための生産性向上及び合理化等に係る費用) を控除。

*2 STN2000100 (DE-128) に関わる減損損失を計上しています。

*3 2021年度第2四半期連結会計期間において、2020年度に買収したEyevance社の取得対価の配分が完了したことに伴い、2020年度通期の金額を遡及修正しました。

研究開発状況(臨床段階)

■緑内障領域 ■角結膜疾患領域 ■屈折異常領域 ■その他の領域

2023年4月時点

開発コード	一般名・化合物名	効能・効果	地域	臨床試験*1			申請	承認	発売
				フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3			
STN1011101 / DE-111A	タフルプロスト/チモロールマレイン酸塩	緑内障・高眼圧症	中国	2022年12月					
STN1011700 / DE-117	オミデネパグ イソプロピル	緑内障・高眼圧症	米国	2022年9月					2018年11月
			日本						
			アジア						2021年2月
STN1012600 / DE-126	sepetaprost	緑内障・高眼圧症	米国						
			日本						
			欧州	(探索的試験)					
STN2000100 / DE-128	緑内障用デバイス	緑内障	日本						2022年7月
			欧州						2019年4月
			アジア						2022年10月
STN1013001 / DE-130A (Catioprost)	ラタノプロスト	緑内障・高眼圧症	欧州	2022年9月					
			アジア						
STN1013900 / AR-13324	ネタルズジルメシル酸塩	緑内障・高眼圧症	日本						
			欧州						2023年2月
			アジア						2023年1月
STN1014000 / PG-324	ネタルズジルメシル酸塩/ラタノプロスト	緑内障・高眼圧症	欧州	2023年1月					
			アジア	2023年1月					
STN1007603 / DE-076C	シクロスポリン	春季カタル	米国	2022年5月					
			中国	2022年4月					
STN1008903 / DE-089C	ジクアホソルナトリウム	ドライアイ	日本	2022年11月					
			アジア	2023年3月					
STN1014100	オロダテロール塩酸塩	ドライアイ	日本	フェーズ1/2a					
STN1010904*2	シロリムス	フックス角膜内皮ジストロフィ	米国 フランス インド	フェーズ2a					
STN1010905	シロリムス	マイボーム腺機能不全	日本	フェーズ2a					
STN1011402	エピナスチン塩酸塩	アレルギー性結膜炎	日本	2023年3月					
STN1012700 / DE-127	アトロピン硫酸塩	近視	日本	フェーズ2/3					
			中国	フェーズ2/3					
			アジア						
STN1012701 / SYD-101	アトロピン硫酸塩	近視	欧州						
STN1013400	AFDX0250BS	近視	日本						
STN1013600	ウルソデオキシコール酸	老視	米国	フェーズ2a					
			日本						
STN1013800	オキシメタゾリン塩酸塩	眼瞼下垂	日本						

*1 臨床試験：フェーズ1～3の3段階で実施されます。フェーズ1では、少数の健康な志願者を対象に安全性を確認します。フェーズ2では、少数の患者さんを対象に適切な投与量や投与方法を検討・確認します。フェーズ3では、多数の患者さんを対象に安全性・有効性を検証します。

*2 開発コードは、フェーズ2試験終了時に当社が独占の実施権を獲得した後に附番予定のコードです。

新中期経営計画(2023-2025年度)を策定

2022年9月以降、再成長に向けた施策を推進しており、この度、2023-2025年度の新中期経営計画を策定しました。

現状

**売上は向上。
但し、コア営業利益率は停滞・悪化傾向**

- 本社機能人員の拡大&海外人材登用による人件費高騰
- 中国の売上鈍化
- 米州の赤字継続
- コストコントロール不十分による販管費増大

**日本の生産性は高いものの、
地域ではらつきが存在**

- 生産性改善の取り組みの地域差
 - 日本・アジアはより少ない人員で売上を維持・拡大
 - 中国・EMEAは増員により生産性はほぼ横ばい
- 患者さんの潜在ニーズを捉えた製品戦略&PDCA*の地域差

*計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)

基本方針

**2025年度までは構造改革と地域事業売上最大化の2軸で収益を最大化
その上で、2026年度以降に向けた新体制の礎とする**

2025年度まで

2026年度以降

考え方

収益性を改善させ、かつ2026年度以降に
予定している大型製品の基盤となる組織力を構築

変革した組織力を梃子に、
大型の新規パイプラインによる価値貢献を最大化

構造改革による収益性改善

**3つの柱を通じた地域事業売上最大化と
2026年度以降も見据えた投資**

Ⅰ 地域戦略+コマーシャル・エクセレンス

Ⅱ 事業開発
(他社上市品、
リージョン品を含む)

Ⅲ 新規事業
(医療用医薬品
売上最大化へ資するもの)

**大型パイプライン上市による新領域での
売上創出**

- 特に、近視・眼瞼下垂などの自由診療で
新しい価値貢献機会を創出
- R&D及び事業開発への十分な投資による
開発・新規パイプラインの探索

基本方針



目標 ・KPI

海外一人当たり売上高の成長を含めて
収益性の確実な改善と安定配当を実現する

2025年度目標

売上収益

2,800億円

コア営業利益額／率

560億円／20%

海外CFU*2一人当たり
売上高成長率
(為替影響除く)

7%以上*1

コアROE

13%

コアEPS成長率

10%以上*1

株主還元

現行32円／年を配当下限に、
増配を目指す
+資本調整として機動的に自社株買い

ESG

ESGマテリアリティ(重要課題)
のうち、「社会的意義のある製品
の市場浸透」(①の要素)と「人材の
育成・登用」(②の要素)を最重要課
題として取り組みを強化

ESGマテリアリティの4カテゴリー

1

社会的意義
(Happiness with Vision) の
ある製品・サービスの開発・
安定的供給

2

価値創造を促進する
組織風土の醸成

3

ガバナンス強化・公正公平な
社会実現への貢献

4

地球環境保全

*1 2022年度予想-2025年度の年平均成長率

*2 Customer Facing Unit: 各国・地域の顧客対応部門

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月
基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

単元株式数 100株

公告方法

電子公告

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL : <https://www.santen.com/ja/pn>

証券コード 4536

上場証券取引所 東京証券取引所

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

〒541-8502

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

TEL : 0120-094-777 (通話料無料)

会社概要 (2023年3月31日現在)

社名 参天製薬株式会社
本社 〒530-8552
大阪市北区大深町4番20号
創業 1890年
設立 1925年
資本金 8,702百万円
工場 能登、滋賀、他
研究所 奈良研究開発センター、他
従業員数 4,144名 (連結)

株式に関するお手続きについて

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行の本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

お問い合わせ先

参天製薬株式会社

IR室

〒530-8552 大阪市北区大深町4番20号

TEL : 06-7664-8621 (代表)

Email : ir@santen.com

URL : <https://www.santen.com/ja>

表紙の写真について

Santenは、眼科のスペシャリティ・カンパニーとして、“Happiness with Vision”の実現に向け、目に関する社会課題の解決に取り組んでいます。

この写真はSanten社員が撮影し、社内のフォトコンテストにて紹介された一枚です。

フィンランドのタンペレの田園地帯で撮影したものです。花は生物多様性を高めるために植えられており、近くには、他所から移してきたハチの巣が設置されています。

参天製薬株式会社



FSC®認証紙と植物油
インキを使用しています。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。